

～ブルーマウンテンズ市への派遣を終えて～

大阪教育大学附属高等学校池田校舎 1年 廣川 和也

2014年 7月25日 ～ 8月8日

私は上記の期間、三田市国際交流協会の派遣高校生としてブルーマウンテンズ市に行ってきました。Brookerファミリーに2週間お世話になり、数多くの経験をする事ができました。





伊丹空港から成田空港経由でシドニー空港に着いたのは朝の6時半でした。早朝にもかかわらず、姉妹都市委員のダニエルさんが迎えに来てくださり、その後ジャンさんがホストファミリーの家まで送っていただきました。そして、お父さんのクリス、お母さんのカレン、16歳のサム、15歳のルーク、7歳のジャスティンが私を家族の一員として迎えてくださいました。

彼らの住むイエローロック周辺は昨年10月のニューサウスウィールズの大規模なブッシュファイヤーで大きな被害を受けた場所です。幸い、ホストファミリーの家や周り近所の家には大きな被害はありませんでしたが、フェンスに焼け跡が残っていました。迫り来る炎にさぞ怖い思いをしたことでしょう。家から約500メートル離れた住宅地は大きな被害を受け、20軒ほどの家が今もなお建設中でした。その周りには幾本もの黒く焼け焦げたユーカリの木々が立っていました。それらは青々とした葉をつけ、たくましく生きていました。

1. オーストラリアでの生活

オーストラリアでは時間がゆったり流れているようでした。学校からの帰宅は、部活動がない為、午後3時ごろ帰宅します。そこから夕食までは自由な時間です。ホストブラザーや近所の友達とサッカーやトランポリンで遊んだり、ルークとグリーンカレーを作ったり、持参した日本のラーメンを作る時間もありました。夕食後は家族でカードゲームや会話を楽しみ、日本や三田を紹介もしました。夜には外に出て満天の星空を見上げました。何にも邪魔されないその星空は澄んだ空気の中この上もなく美しく輝いていました。夜10時には就寝です。

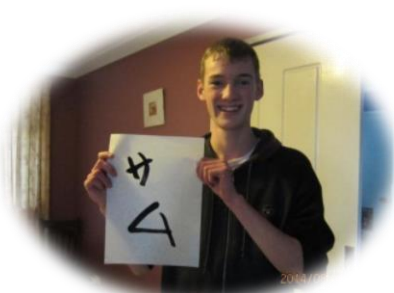
買い物時、気付いたことは値段の高さです。オーストラリアは予想に反して物価が高いです。牛乳、肉類等は安価ですが、菓子類や飲料は日本での価格の2倍程でした。消費税はスーパーで買う食品にはかかりませんが、生活必需品以外には10%かかります。お土

産品も高価でした。



・書道体験

私がこの派遣生募集に応募した理由のうちのの一つは、書道の魅力を伝え体験してもらおうということでした。学校のみみんなに体験してもらうことはできませんでしたが、ホストファミリーに体験していただきました。事前に家族みんなの名前に良い意味を持つ漢字を組み合わせ、当て字を考えました。例えば、サムは「咲夢」 blooming dream、カレンは「華恋」 gogeous love というような感じです。漢字は難しいと思いましたが、カタカナで書いた後、漢字にも挑戦してくれたところ、初めてとは思えない程上手で本当に驚きました。7歳のジャスティンはカタカナでとても上手に何度も書きました。書道にとっても興味を持ってくれて、楽しそうに一生懸命書いているみんなの姿は見て、とても嬉しい気持ちになりました。



2. ウィンマリー高校での毎日



ウィンマリー高校は公立校で、生徒数は約 1000 人です。とは言っても日本の高校とは違って7年生から12年生までが在学しています。日本で言う中学1年生から高校3年生です。1月から新学期が始まります。

私が驚いたことは、日本のようなクラスが存在しないことです。授業を一緒に受ける生徒は授業毎に異なり、クラスのような単位で集まるのは朝に出席確認と連絡の為に毎日決まった場所に集まる時だけです。選択科目制を取り入れていて、9、10年生になると、全授業8授業のうち3科目は自分で選べるようになります。そして、11年生になると全6科目の全部を選んで受けることができるようになります。

授業は昨年までは8時間授業制で、1授業38分でしたが、今年から4時間授業制とし、1授業76分に変更されました。私が通う高校では1授業が50分なので、とても長く感じました。生徒はベルが鳴ってから、次の授業に移動します。日本のような2分前着席などの概念はありません。

1限目終了後は持参したサンドウィッチなどの軽食を食べ、3限後の昼休みには売店でソーセージや飲み物を買う生徒が多い中、インスタントラーメンを片手に列に並び、20セントを払ってお湯を注いでもらっている生徒も多くいました。授業が終わるとすぐにスクールバスに乗り込み、家に帰ります。



ちなみに、アルバイトは認められていて、16歳のサムは週に3回放課後スーパーで働いていました。貯めたお金で40万円もするパソコンセットを買っていました。振る舞いも1

歳だけ下の私やルークに比べてずいぶん大人に見えました。

・授業

11年生（高校2年）のサムと経営学、法律学、国語（英語）を、9年生のルークと科学、国語、経済学、クッキング、体育の授業を一緒に受けました。一番印象深かったのは経営学で、経営者の立場から店を繁盛させるための手段、消費者の立場に立って何が消費者を引き付けるのかなどを生徒と先生で議論したことです。実践的な学習でとても興味深く感じました。次に、国語でアボリジニーの詩を読み解いたことです。近代的な社会の中で戸惑うアボリジニーの人々の気持ちに触れ、考えさせられました。

また、体育でスケート場に行き、滑ったこと、クッキングで串料理を作ったことはとても楽しかった思い出です。

授業を受けて感じたことは、生徒達のととてもリラックスした授業態度でした。授業中に音楽を聴いたり、スマホでゲームをしていたり、お菓子を食べたり、私語があったりと日本では考えられないような光景でした。音楽を聴くことは認められているようですが、それ以外は人に迷惑を掛けない限りは個人に任せているというところでしょうか。聞く態度の面では、日本の学校の良さを改めて感じました。しかし、議論を活発に取り入れた授業はとても良いと思いました。先生が一方的に生徒に教えるのではなく、生徒に質問をして、その質問に対して考え、活発に議論をしていました。このように生徒が授業に積極的に参加し、思考能力、論理的に話す能力を高める授業を日本の教育でももっと取り入れるべきだと思いました。

・プレゼンテーション

日本の伝統文化である書道のプレゼンを行いました。書道には1メートル四方の半紙に「道」と巨大な筆で書いたものを持参しました。また、もう一つ、日本地図に日本の世界遺産、名所、そして三田の場所を印し、その美しい写真を張り付けたものを用意し、三田や日本を紹介できるようにしました。

学校で行う前に、ホストファミリーにプレゼンを聞いてもらって感想を聞き、分かりやすいように少し改善を加えました。また、坪田さんのホストマザーがコミュニティーカレッジの英語の先生で、そこに連れて行ってくださり、まずそこでプレゼンをする機会を頂きました。英語のクラスは合計15人程で、イラクやエジプト、中国などの国から移住して来られた方々が生徒です。プレゼンを興味深い面持ちで聞いてくださり、書道や日本についてとても興味を持ってもらうこともでき、嬉しく思いました。

学校では滞在最後の日に日本語のクラスでさせていただきました。オーストラリア人の日本語の先生と30人の生徒と一緒に聞いてくださいました。生徒達は日本語の授業選択しているだけあって、日本について興味深々で、とても興味を持って聞いてくれ、プレゼンが終わった後にはみんな大きな拍手をしてくれました。

日本の美について伝える機会を持つことができ、とても嬉しく思いました。



日本語クラスのみんなどの写真

3. オーストラリアの教育制度

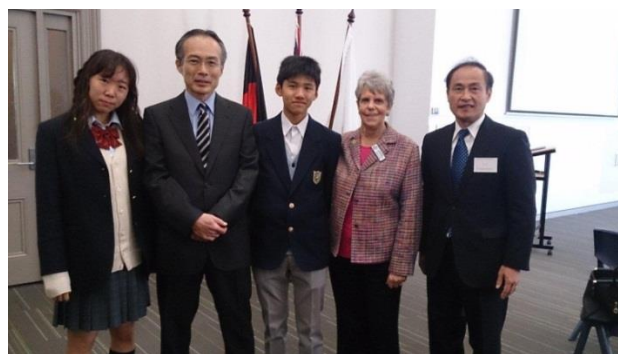
オーストラリアの義務教育は13年間でプライマリースクールと呼ばれる幼稚園(1年間)から6年生までの学校から始まります。幼稚園は1年生として数えるのではなく幼稚園の1年間を終えた次の学年から1年生として数えます。5歳から12歳まではその学校で過ごします。

そして、その後13歳から18歳までの6年間、7年生から12年生までをハイスクールで過ごします。12年生は志望大学を決める大きな試験がある為放課後自宅で勉強するそうです。このハイスクールを卒業すると、義務教育が終了し、その後は大学に進学します。オーストラリアの大学進学率は80%で、日本の60%より高いです。(2010年統計)

4. 訪れた場所

① セントコロンバス高校

北摂三田高校と姉妹校のセントコロンバス高校での集会と茶話会に参加しました。北摂三田高校の校長先生、先生方、約20人の生徒がいらっしやっていました。そして、ブルーマウンテンズのグリーンヒル市長、議員のファンデルクレイさんとマクグレガーさん、シドニー日本総領事館の総領事が参加されており、お会いしました。集会後の茶話会では色々な方々とお話をする機会があり、嬉しく思いました。



②カイクさんのお見舞い

三田市とブルーマウンテンズ市の姉妹都市提携に尽力された国際交流委員会のコリーンさんのご主人ケリーさんのお見舞いに伺いました。とてもお元気そうで、お茶をいただきながら、今までの交流の様子を伺ったり、いろいろなお話をしました。私たちの訪問をとても歓迎してくださいました。



④動物園

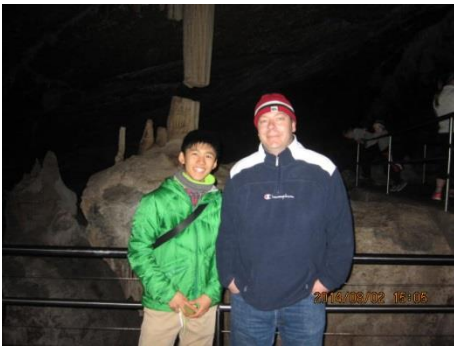
フェザーデイル野生生物公園という動物園にホストファミリーに連れて行っていただきました。そこにはとても多くの種類のオーストラリア特有の動物がおり、ワラビーが園内を自由に飛び回っていました。可愛いコアラを何匹も見て、触ることができましたが、全て寝ていました。それもそのはずで1日18時間ほど寝ているそうです。



白色のワラビーもいました。また、ワラビーなどの小さい動物を見た後にカンガルーを見ると、想像以上の大きさに驚きました。ワラビーよりも少し大きいワラルーには餌をあげることもできました。

⑤洞窟

ジェノランケーブスという洞窟にも連れて行っていただきました。そこにはいくつもの洞窟があり、その中のルーカス洞窟ツアーに参加しました。洞窟は長さ 860mあり、1 時間半ほどガイドを受けながら歩き、その広さには驚きました。中にはワラビーが住んでいました。また、ショールと呼ばれるひだのような部分には LED の光が当たり、その輪郭が暗闇に浮き上がって綺麗でした。洞窟はライトアップされた場所以外は、当然のことながら真っ暗で、全く光が差し込まない漆黒の闇の世界でした。



③カトーンバ

国際交流委員会のジャンさんにカトーンバに連れて行っていただきました。イエローロックから 1 時間くらいかかりました。景色を望むエコポイントという展望台に着いた途端、息をのむような絶景が目に飛び込んできました。ブルーマウンテンズ市の名前の由来の Blue Mountains 青い山々です。目の前に広がる壮大な大地に自然の偉大さを感じました。





その後シーニックワールドに移動し3種類あるルート全てに乗車しました。その中のレイルウェイは勾配が52度もあり、前に落ちそうになりながら見た景色は格別でした。ケーブルウェイ、スカイウェイからはスリーシスターズが間近に見え、伝説の姉妹の周りは大昔からそのまま時間が止まっているようでした。

5、最後に

このような貴重な体験をする機会を与えてくださった三田市国際交流協会の皆様、ジャンさんをはじめとするブルーマウンテンズ市国際交流協会の皆様、2週間お世話になったホストファミリーや友達、先生方、お世話になったすべての人に深く感謝申し上げます。この体験での一人一人の出会い、繋がりを大切に、三田市とブルーマウンテンズ市の架け橋の一人になりたいです。そして、様々な角度から物事を見ることが出来る広い視野を持つ人になりたいと思います。

本当にありがとうございました。.